

麦作 冬期間の管理徹底を!



菊池中央・営農課
坂本職員

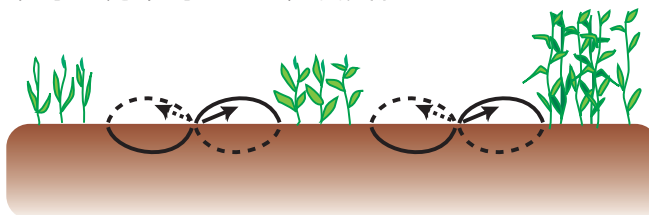
麦は湿害に弱い作物です。良品質・多収を得るためには、冬期（1月～2月）に
土壌の表面排水に努め、根の健全化を促しましょう。また、春季雑草の発生を
防止して、有効穂数を確保しましょう。

中 耕

土壌中の通気、水はけを良くして、新根の発生を促
します（酸素を取り込み還元状態を防ぐ）。1月上
旬・2月中旬・2月下旬の3回程度実施しましょう。



1回目は右へ、
2回目は左へと
交互に土を寄せ、
耕すことになります。



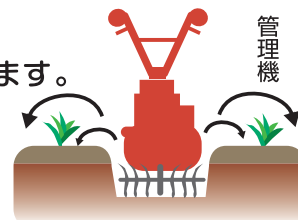
中耕すると根の発育を
促進する効果があります。

土入れ

土入れには寒害からの保護や雑草の発生防止・
無効分げつ抑制の効果があります。また、土入れによって
できた溝は、表面排水の役目をはたし、湿害の予防にもなります。

注意点

- 天候がよく、土壌が乾燥している時に実施しましょう。
- 1月上旬～2月中旬の間に2・3回実施しましょう。
- 麦の生育に合わせて土入れ（培土）量を増やしましょう。
- 溝は排水口まで連結させて、
水が圃場にとどまらないようにしましょう。

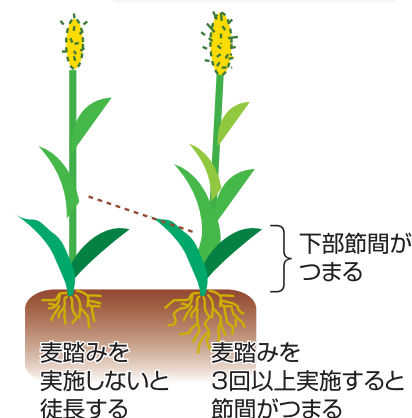


麦踏み

下部節間が詰まり、根張りが良くなることから、
分げつの増加、倒伏の防止に効果があります。

注意点

- 天候がよく、土壌が乾燥している時に実施しましょう。
- 2.5～3葉期を目安に開始しましょう。
- 1月上旬～2月中旬の間に3回以上実施しましょう。
ただし、節間伸長開始以降は行わないでください。



※近年、暖冬の影響で生育が早く、麦踏み時期を誤ると減収につながります。
相談事や不明な点は、最寄り中央支所の指導員におたずねください。